

2020年6月21日 司祭 越山 哲也

八戸聖ルカ教会

聖霊降臨後第3主日（特定7） 説教

「教会の窓を通して神さまの正義を知る」

〔旧約聖書〕	エレミヤ書 20:7~13
〔使徒書〕	ローマの信徒への手紙 5:15~19
〔福音書〕	マタイによる福音書 10:24~33

主の平和が皆さんと共にありますように。

「すべての心は主に現れ、すべての望みは主に知られ、どのような秘密もみ前に隠れることはありません。」（祈禱書 162 頁 聖餐式より）

上記の言葉は、聖餐式の参入で必ず司式者によって祈られる「清めの祈り」の一部です。私はこの祈りを献げる度に身の引き締まる思いがいたします。

「人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはないからである。」（マタイ 10:26）

「体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできない者どもを恐れなさい。」（マタイ 10:28）

皆さんはこの主イエスの御言葉をどう聞きますか。日本では「臭いものに蓋をする」という慣用句があり、自分にとって面倒なこと、不都合なこと、不利益なことは内心では良くないとは思いつつ、その事を避ける、公にはしないという意味と私は理解しています。

社会の中で日々あり続ける、不条理なこと、不正、命を脅かすものに対して主イエスは明らかにしようとしてくれます。

教会はキリストの教会ですから徹底的に主の教えに従って、その道を歩まなければなりません。しかし、それは本当に難しいことです。主の教えに照らして社会の闇を、そして「わたし」の闇が照らされていることを感じます。

福音は「私たちが真の救いへと導く喜ばしきお知らせ」ですが、それは常に私たち、そして「わたし」への主イエスからのチャレンジです。

福音は核心をついてきます。ゆえに、社会や私たちの日常、常識、「くさい物には蓋」をしようとする人間の習性をゆり動かします。私自身、どうだろうかと思います。時に、主の福音のように世の中の不正義、不条理について説教で語ってきたこともあります。そして、それらはすべて自分自身に跳ね返ってきました。神様の正義を人間の口で語るのはとても難しく、間違いに陥りやすいと思います。

新聞、テレビの報道、またインターネットでの情報には必ず100%事実ではありません。必ず編集が入ります。私たち一人一人それぞれの今置かれている立場によっても発信の仕方、また受け止め方が変わってきます。

日本聖公会では「沖縄週間」を迎えています。今年はコロナ感染予防のため毎年の沖縄週間にあわせて行われてきた「沖縄の旅」は残念ながら中止となってしまいました。

私は数回沖縄に行ったことがあります。米軍基地を建設予定の沖縄県名護市にある辺野古で座り込みで抗議活動を続けておられる現場の「おじい」「おばあ」と話をした時に言われた言葉が忘れられません。

「私が行っていることはあなたのためなのよ」

沖縄の現実を私は目の当たりにして、東北に戻ってきて数人の方に沖縄で出会ったおじい、おばあの話をしました。しかし、正直あまりそこにリアリティは感じませんでした。私自身も現地を離れるとその思いに変化が現れていることに気づきました。

神様の正義がこの世界に実現するようにと祈ります。そして、同時に人間の正義の危うさを思います。私たちが生きるこの社会、そして地上の教会は完全なものではありません。だからこそ、繰り返し繰り返し主の御言葉に聞き続けなければならないと思います。

そして、様々なプログラムが教会には準備されています。「教会の窓」という言葉があります。それは同じ沖縄に旅行に行くとしても旅行会社の沖縄旅行と教会の窓というフィルターを通して行われる沖縄の旅は、訪問する場所も違うということです。

聖公会は「提示するけど説明しない」という立ち位置があると私が神学生の頃、先輩聖職から教えて頂きました。「教会の窓」を通してイエス様は神様の正義を私たちに示されています。私たちは可能な限りその示された場に赴き、また心に向けて、それぞれが神様の正義についていつも考えていかなければならないと思います。そして己の正義が常に他者を傷つけ、また関係を壊す危険性を持っている事も忘れないでいたいと思います。

